

# 教 育 研 究 業 績

2019 年 5 月 1 日

氏名 大和田 栄  
学位： 文学修士

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
言語学・情報学	言語学・英語学・外国語教育・認知科学	
主要担当授業科目	英文法、英語学、英語翻訳、Writing、スタディスキル	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1) コンピュータ利用の授業実践	平成 8 年 4 月～平成 24 年 3 月	東京成徳短期大学において、コンピュータ利用の語学教育の研究より、学習者の多様性に応じた英語学習のひとつとして、コンピュータ利用の英語教育実践を開始。その後、平成 10 年度からはインターネット上の素材も利用しながら、一斉授業の中での個別学習中心の授業を行い、多様な学習者へ対応し、TOEIC のスコア向上など実質的な成果をあげた。
2) CALL の導入	平成 12 年 4 月	東京成徳短期大学において、旧来の LL 教室から、VOD (Video on Demand) を備えたネットワーク対応 CALL 教室への移行の指揮をとり、従来の LL 教室や一斉授業では困難であった授業展開を可能にした。
3) e-Learning サイトの構築・管理	平成 20 年 6 月	東京成徳短期大学 (及び東京成徳大学十条台キャンパス) において、インターネットを利用した学習支援サイト (e ラーニングサイト) の設置、及び利用促進の指揮をとり、従来の授業支援の幅を広げた (設置当時は IT 委員長)。現在は、学習管理システムの管理者、教職員向けの講習会の開催時の講師として、システム運営に携わっている。授業外での学生支援体制を整えることにより、より幅広く、細かな形での学生指導を可能とした。
2 作成した教科書、教材		
1) Writing	平成 10 年 4 月	東京成徳短期大学・学生の英語の文法・語法・作文能力を養成するための文法項目ベースのオリジナル教材。
2) English Communication	平成 16 年 4 月	東京成徳短期大学・学生の英語の基礎能力養成・確認のためのオリジナル英語リメディアル教材。
3) 総合英語	平成 22 年 4 月	2) の教材の改訂版 (e-learning サイト対応)
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		
英語コーパス学会 編集委員	平成 17 年 4 月～29 年 3 月	英語コーパス学会の学会誌「英語コーパス研究」の編集委員として、編集及び査読等を担当。
英語コーパス学会 東支部運営委員	平成 17 年 4 月～29 年 3 月	英語コーパス学会東支部運営委員として東日本地域での活動の運営を担当。(平成 28 年 4 月～29 年 3 月まで東支部支部長)
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

4 その他				
研 究 業 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1) 英文法 - Juicy English Syntax -	共著	平成元年3月	トフルアカデミー	共著: <u>大和田栄</u> (監修) / <u>大和田栄</u> ・笠松泰洋・仲本浩喜・萩原一雄・林功 大学受験英文法教科書として、主に高校3年生・予備校生向け教材として、英語の読み・書き・聴き・話すための仕組みとしての「文法」を意識させる解説と英文法問題。 (共同執筆のため本人担当部分抽出不可能)
2) 海外言語学情報 第7号	共著	平成6年1月	大修館書店	共著: 森岡ハインツ・梶田優編 / 石川彰・小川定義・松本曜・都築雅子・佐々木晴子・宮腰幸一・五十嵐義行・守屋哲治・高尾享幸・中村嗣郎・川森雅仁・犬塚博彦・日比谷潤子・松原知代子・石坂郁代・本橋辰至・ <u>大和田栄</u> ・島憲男・小川裕花・寺尾いづみ・加藤ナツ子・大森洋子 「英語統語論」の項目を執筆。1991~1992年の2年間を中心とした海外における言語学の動向を示した調査報告。統語論・意味論・語用論などの他、社会言語学・神経言語学も含めた20篇の論文と608点にのぼる文献目録の中で、英語統語論を担当し、二重目的語構文、照応関係、二次的述語など句構造の構築に関わる問題を中心に扱った。 執筆 pp. 236-246
3) 海外言語学情報 第8号	共著	平成8年1月	大修館書店	共著: 森岡ハインツ・加藤泰彦編 / 宮腰幸一・漆原朗子・秋山正宏・鎌田浩二・中谷健太郎・堀江薫・松本曜・高尾享幸・守屋哲治・小川定義・中村嗣郎・佐々木晴子・岡部了也・深谷輝彦・松原知代子・石坂郁代・現影秀昭・ <u>大和田栄</u> ・島憲男・小川裕花・寺尾いづみ・加藤ナツ子・森本祐子・大森洋子・本橋辰至 「英語統語論(II)」の項目を執筆。1993~1994年の2年間を中心とした海外における言語学の動向を示した調査報告。統語論・意味論・語用論などの他、社会言語学・神経言語学も含めた25篇の論文と837点の文献目録の中で、英語統語論を担当し、移動・削除・空所化・痕跡に関わる事象、交替構文、助動詞的要素などを中心に扱った。 執筆 pp. pp. 217-224
4) フェイバリット英和辞典	共著	平成8年10月	東京書籍	共著: 浅野博・安藤賢一・池谷彰・小川晶・比嘉正範・牧野高吉 (編) / <u>大和田栄</u> 他61名 基本的なことばはもちろん、時事・コンピュータ・環境・福祉関連のことばも充実した約6万2千項目を収録し、多くの意味をもつ語彙には主要語義を一括表示するなどの工夫や、会話用例なども入れた学習英和辞典。 (共同執筆のため本人担当部分抽出不可能)

5) 海外言語学情報 第9号	共著	平成10年1月	大修館書店	共著：梶田優・加藤泰彦編／犬塚博彦・高橋美弥子・秋山正宏・鎌田浩二・齊木麻利子・谷光生・堀江薫・高尾享幸・佐々木晴子・江連和章・岡部了也・深谷輝彦・杉崎鉦司・松原知代子・高橋秀彰・石坂郁代・大和田栄・高橋寛・島憲男・小川裕花・加藤ナツ子・森本祐子・大森洋子 「英語統語論I」の項目を執筆。1995～1996年の2年間を中心とした海外における言語学の動向を示した調査報告。統語論・意味論・語用論などの他、社会言語学・神経言語学も含めた23篇の論文と780点にのぼる文献目録の中で、英語統語論を担当し、省略・空所化・削除現象、及び時制を中心に、英語に特有と考えられる統語現象についての文献を扱った。 執筆 pp. 213-220
6) ユニコン英和辞典	共著	平成14年11月	文英堂	共著：末永國明・山田泰司・川端一男（編）／大和田栄他41名 基本重要語1万には豊富な用例と親切な解説を施し、IT・環境などの最新の言葉を大幅に採用し、基幹となる動詞の文型と使い方などを分かりやすく表示した学習英和辞典。 （共同執筆のため本人担当部分抽出不可能）
7) OEDの中の日本語378	共著	平成16年2月	論創社	共著：福田陸太郎・橋本禮子・伊藤勲・伊藤香代子・糸山昌己・海老名洗子・太田隆雄・大和田栄・尾造保高・坂上祐美子・西澤龍生・西村幸三・野呂有子・馬場哲生・吉江正雄・渡辺佳余子 語の意味の歴史の変遷を具体的に示している点に特色があるイギリスで最も権威ある辞典である『オックスフォード英語辞典（Oxford English Dictionary）』に見られる日本出自の項目についての研究。日本語がいつどのようなコンテキストで英語の中に取り入れられたか、西洋が日本をどのように理解してきたかについて、日本出自378項目について、用例の訳出などを含む解説。 執筆 hanami, honcho, hoochieなどの項目の項目及び、日本語リストの作成を。
(学術論文)				
1) Case Theory and English Dative Constructions (修士論文)	単著	昭和61年3月	上智大学	英語二重目的語構文の特性について詳細に考察し、それまでに十分な形で解決されなかった意味的に類似点をもつ前置詞構文との関係、wh移動、受動化、to与格構文・for与格構文に関する事実について、生成文法・GB理論の枠組で、特に格理論を用いて例証。また、関連する類似現象について他言語（ロマンス諸語等）についても検討を加えて考察。
2) Syntactic Structure and Semantic Representation in English Dative Constructions: With Special Reference to Reflexives	単著	昭和61年8月	Sophia University Linguistic Society Newsletter 1 pp. 35-36	英語与格構文・二重目的語構文の統語的・意味的特徴について、特に再帰代名詞の生起との関連で考察。有標構文である二重目的語構文においては、束縛理論が、いわゆる統語構造とは別の意味構造において決定されることを例証。
3) Covert PP and English Dative Constructions.	単著	昭和62年2月	Descriptive and Applied Linguistics Vol. XX. pp. 145-156	英語二重目的語構文の特異性について、間接目的語を空の前置詞をもつ前置詞句と処理することで多くの事実が解決されるということ、理論的枠組みとして生成文法・束縛統率理論を採用して、例証。

4) 形容詞受動構文における主題役割の役割	単著	平成2年12月	常葉学園短期大学紀要 21号 pp.169-179	形容詞受動構文の主語決定においては主題役割ではなく、形態論で有用なFirst Sister Principle という原理が統語論の一部でも有効であり、拡張した形の原理を提案し、First Sisterが主語になれることを考察・検証。
5) 格助詞の脱落について	単著	平成3年12月	常葉学園短期大学紀要 22号 pp.53-63	日本語の格助詞「を」「が」が、言語運用上脱落する現象についてとりあげ、格助詞脱落が生じる環境・条件などについて考察。
6) 受益のApplicative とその普遍性	単著	平成4年12月	常葉学園短期大学紀要 23号 pp.33-44	受益の意を表す要素が、かなり普遍的に動詞の項位置に編入される現象について、パンツァー諸語・ロマンス諸語・英語などを対象に考察。言語の普遍的特徴の一つになりうることの提案とその原因について示唆を提示。
7) 付加部の繰り上がり現象について	単著	平成6年3月	東京成徳短期大学紀要 27号 pp.29-39	意味的に義務的項ではない受益・道具・場所を表す要素が多くある言語で、項位置を占めることがあることについて、類型論的に考察。
8) OEDに見られる日本語 - 資料と分析 -	単著	平成7年3月	東京成徳短期大学紀要 28号 pp.77-103	英語に見られる日本出自の語彙について、語の意味の歴史の変遷を具体的に示している点に特色があるイギリスで最も権威ある辞典である『オックスフォード英語辞典 第2版(OED)』を対象とし、近現代における西洋での日本発見の過程を明らかにするための研究の一部として、本稿では、語彙検索の方法論、調査対象とする項目などについて提示し、日本出自の項目の扱い、カテゴリー・引用例数・出典文献などについて提示。
9) OEDに見る英語の中の日本語	単著	平成7年3月	平成6年度英語英文学教育研究協議会集録 東京都私立短期大学協会 pp.47-52	OEDに見られる日本出自語彙について、用例発行年の変遷と日本の対外交流の歴史の相関を中心にした考察。
10) OEDの中の日本語	単著	平成7年7月	現代英語教育 研究社出版 pp.26-28	OEDに見られる日本出自語彙について、基本資料を提示し、特徴などについて概観。
11) OEDに見られる日本語(2) - 異形・綴・派生 -	単著	平成8年3月	東京成徳短期大学紀要 29号 pp.41-53	OEDに見られる日本出自語彙について、綴りなどの形態の変異や派生語の出現などに焦点をおいた研究。
12) 接尾辞「-中」と造語性	単著	平成9年3月	東京成徳短期大学紀要 30号 pp.37-43	一般に「している最中」などの意味を表わす漢語接尾要素「中」の造語性について分析し、「中」のもつ意味の中核を考察。
13) OEDに見られる日本語(3) - OEDの中のケンペル -	単著	平成9年3月	東京成徳短期大学紀要 30号 pp.27-35	OEDの中で日本出自の語彙をもっとも多く輩出しているケンペルに焦点をあてて、その人物について、日本との関係などを含めたことについての概観と、語彙の特徴について考察。
14) 英語教育における人とコンピュータ - CALLの現状と課題-	共著	平成9年3月	東京成徳短期大学紀要 30号 pp.11-26	共著：糸山昌己・馬場哲生・大和田栄 現在のコンピュータ支援語学教育において、人の役割とコンピュータの役割について、実証的考察に基づいた問題点の指摘と展望。 執筆担当部分は、協議して執筆したため特定できない
15) OEDに見られる日本語(4) - Additions Series Vol.1-3 -	単著	平成10年3月	東京成徳短期大学紀要 31号 pp.1-12	近い将来出版されるOED第3版に向けて出版されたAdditions Seriesに見られる日本出自語彙の精査し、基本資料の提示と考察。
16) OEDに見られる日本語(5) - 最近のオックスフォード辞書との比較を中心に-	単著	平成11年3月	東京成徳短期大学紀要 32号 pp.19-31	最近のオックスフォード出版が出版する新語辞典・外来語辞典などに見られる日本出自語彙の精査・考察。
17) インターネットを利用した英語教育の試行と研究	共著	平成11年3月	東京成徳短期大学紀要 32号 pp.1-14	共著：糸山昌己・大和田栄 実際のコンピュータ・インターネットを利用した授業とアンケート結果を吟味しながら今後の展開について考察。 執筆担当部分は、協議して執筆したため特定できない
18) コーパスに見る日本語出自の英語	単著	平成12年3月	東京成徳短期大学紀要 33号 pp.61-64	今までに抽出してきたOEDに見られる日本出自の語彙について、Brown CorpusとLOB Corpusを使って、データ検索を行い、数値的資料作成と考察。

19) タガログ語書き言葉に見られる英語とのコードスイッチングータガログ語新聞を対象としてー	単著	平成 16 年 3 月	東京成徳短期大学紀要 37 号 pp. 15-23	従来話し言葉に見られるものとして取り上げられてきたコードスイッチング/コードミキシングの現象が、書き言葉にも広範に見られる事例を提示。データとしては、タガログ語をベースにしている新聞より、タガログ語と英語とのコードスイッチング現象をとりあげ、事実観察及び、統語を中心とした分類と考察。
20) 本学・言語文化コミュニケーション科における情報教育の現状と課題	単著	平成 17 年 3 月	東京成徳短期大学紀要 38 号 pp. 27-36	2003 年度・高校での教科情報の導入以降の本学の言語文化コミュニケーション科での情報教育をどのように行っていくべきかを図るため、アンケート調査を主たる方法として、現状の把握を中心に、今後の課題について考察。
21) 短期大学における情報教育の現状と課題	共著	平成 17 年 8 月	2005 PC カンファレンス論文集 コンピュータ利用教育協議会	共著：大和田榮・糸山昌己・山下琢巳 東京成徳短期大学の全 3 科を対象に、入学前・在学中の情報教育（コンピュータリテラシー・倫理など）についてのアンケート調査を基に、短大での情報教育の在り方について考察。 執筆担当部分は、協議して執筆したため特定できない
22) フィリピンにおける多言語表示についてー看板・掲示に見る多言語使用の実態ー	単著	平成 19 年 3 月	東京成徳短期大学紀要 40 号 pp. 71-82	多言語国家であるフィリピンにおける不特定多数に向けられていると考えられる看板・掲示物の類を主たる対象に、公用語であるタガログ語（≒フィリピン語）と英語の間でのコードミキシング表示、両言語併記のバイリンガル表示、単一言語表示などが、どのように使い分けられているのかを考察。基礎的なデータの収集結果・分類などを中心に、実際の写真とともに提示・分析。
23) タガログ語データ・コーパスの質と性格	単著	平成 20 年 6 月	英語コーパス研究 15 号 pp. 33-43	フィリピンの主要言語であるタガログ語を研究対象にする場合の、データ・コーパス利用の実態についての概観を行うとともに、利用可能なコーパスのうち、Web（新聞）媒体を用いた書き言葉コードミキシング、英語とのパラレルコーパスとして利用可能な公文書（憲法）を利用した語順・主語の選択などを事例にした分析例の提示。
24) 日本出自英語語彙再考	単著	平成 29 年 3 月	東京成徳大学研究紀要ー人文学部・応用心理学部ー 第 24 号 pp. 137-145	日本出自の英語語彙について、2000 年頃までに発表してきた OED 等、辞書を中心行ってきた研究の追跡調査と考察。また、それらをベースに、BNC などのコーパスを手掛かりにした出現状況の概要提示と考察。
(その他) <口頭発表>				
1) Syntactic Structure and Semantic Representation in English Dative Constructions: With Special Reference to Reflexives	単著	昭和 61 年 6 月	第 1 回上智大学言語学会	英語と格構文・二重目的語構文の統語的・意味的特徴について、特に再帰代名詞の生起との関連で考察。
2) Covert PP and English Dative Constructions	単著	昭和 61 年 8 月	ICU 第 25 回夏期言語学研究会	英語二重目的語構文の特異性について、間接目的語を空の前置詞をもつ前置詞句と扱うことで解決する試案提示。
3) Theta Roles and Adjectival Passives	単著	昭和 61 年 12 月	東京英語学談話会	形容詞受動文の主語決定における主題役割の役割について検証し、主題役割以外の統語的要素が関わっていることについて例証。
4) On Double Objects	単著	平成 2 年 9 月	東京英語学談話会	英語二重目的語構文の様々な諸特徴についての考察。
5) 二重目的語構文いろいろ	単著	平成 2 年 10 月	静岡言語学サークル	英語二重目的語構文の様々な諸特徴についての考察。
6) 格の脱落	単著	平成 3 年 12 月	東京英語学談話会	格助詞「を」「が」が言語運用上脱落する現象について考察。
7) On Benefactive Applicatives	単著	平成 4 年 12 月	中部言語学会	受益要素が目的語位置に編入される現象について、英語・バンツァー諸語・ロマンス諸語を対象に考察・検証。
8) From Adjunct To Argument: With Special Reference to Benefactives	単著	平成 4 年 12 月	東京英語学談話会	受益の付加詞について、項位置（目的語）として振る舞うことが多くの言語で見られることについての考察。
9) On Adjunct Promotion	単著	平成 6 年 9 月	東京英語学談話会	付加詞要素（受益・道具・場所・時など）が項位置（目的語・主語）として振る舞うことが多くの言語で見られることの考察。

10) OEDに見られる日本語の研究	単著	平成6年11月	私立短期大学協会 英語英文学教育研究協議会	OEDに見られる日本出自語彙について、用例発行年の変遷と対外交流の歴史の相関を中心に考察。
11) OEDに見られる日本語	単著	平成9年12月	JACET 英語辞書研究会 ワークショップ	OEDに見られる日本出自語彙について、主に見出し語彙項目ベース・引用文献ベースに、数値的資料提示と分析。
12) 英語辞書に見られる日本語 - OED2以降のオックスフォード辞書を中心に -	単著	平成10年11月	JACET 英語辞書研究会 ワークショップ	最近のオックスフォード出版が出版した新語辞典・外来語辞典・New Oxford Dictionary of Englishなどを対象に日本出自語彙の精査・考察。
13) 英語のタガログ語への浸透度 - タガログ語新聞に見られる英語-	単著	平成15年6月	日本「アジア英語」学会 第13回全国大会シンポジウム「フィリピン英語の諸相」	英語の通用範囲が広いと言われるフィリピンにおいて、マニラ首都圏でもっとも多く実際に母語として使用されているタガログ語に、どの程度の英語が、どのような形で使用されているかについて、大衆紙をターゲットに事実提示・分類・考察。
14) 短期大学における情報教育の現状と課題	共著	平成17年8月	PC Conference コンピュータ利用教育協議会	共著：大和田栄・糸山昌己・山下琢巳 東京成徳短期大学の全3科を対象に、入学前・在学中の情報教育（コンピュータリテラシー・倫理など）についてのアンケート調査を基に、短大での情報教育の在り方について考察。 共同研究であるが、口頭発表は大和田栄が担当。
15) タガログ語データ/コーパスの質と性格	単著	平成19年10月	英語コーパス学会 第30回大会シンポジウム「他言語コーパス研究の現在：英語研究への示唆」	フィリピンの言語状況の概略、主要言語であるタガログ語の簡単な紹介、現状のタガログ語コーパスの利用可能性について言及するとともに、タガログ語データ・コーパスを利用した事例研究、英語とのパラレルデータを利用した文法研究について提示。
<依頼原稿>				
1) インターネット言語学情報 27 - コーパスサイトと論文入手 -	単著	平成12年3月	月刊言語 3月号 大修館書店 pp. 108-9	インターネット上でのコーパスの利用法と論文入手についての現状を紹介。
2) インターネット言語学情報 30 - 手話 -	単著	平成12年6月	月刊言語 6月号 大修館書店 pp. 102-3	American Sign Language を中心としたインターネット上での手話関連情報について紹介。
3) インターネット言語学情報 33 - 失語症 -	単著	平成12年9月	月刊言語 9月号 大修館書店 pp. 98-99	失語症に関するインターネット上のサイト情報について紹介。
4) インターネット言語学情報 36 - 文字 -	単著	平成12年12月	月刊言語 12月号 大修館書店 pp. 76-77	世界の文字に関するインターネット上の情報について紹介。
5) インターネット言語学情報 39 - 音声学・音韻論入門 -	単著	平成13年3月	月刊言語 3月号 大修館書店 pp. 114-5	インターネット上の音声学・音韻論の入門サイト情報を紹介。
6) インターネット言語学情報 42 - 動物の「ことば」 -	単著	平成13年6月	月刊言語 6月号 大修館書店 pp. 86-87	類人猿をはじめ、動物の「ことば」についてのネットワークサイト概観。
7) インターネット言語学情報 45 - 記号論・記号学 -	単著	平成13年9月	月刊言語 9月号 大修館書店 pp. 88-89	インターネット上の記号論・記号学関連サイト情報を紹介。
8) インターネット言語学情報 48 - 言誤学（言葉の誤り） -	単著	平成13年12月	月刊言語 12月号 大修館書店 pp. 108-9	インターネット上の、言葉の誤用や規則的誤り等を集積したサイト情報を紹介。
<テレビ番組>				
1) みんなでニホンGo! 「海を渡った日本語」		平成22年9月9日放映	NHK	番組提示のトピック「海を渡った日本語」について、OEDに見られる日本語という観点からの情報提供（語彙数・出現時期・背景など）を行うとともに、番組内容に関わるコメント等として、映像出演。
2) 雑学王		平成22年10月4日放映	テレビ朝日	日本出自の英語に関わるクイズについての情報を提供すると共に、当該問題の解説を担当（映像出演）。

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。